「難民の子どもたちに私たちができること」

　吹田市立佐井寺中学校　生徒会　会長

昨年のリオデジャネイロオリンピックで、難民選手団が構成され、出場したことを知っていますか。

リオオリンピック難民選手団は、陸上競技六名、柔道二名、競泳二名の合計十名で構成され、五輪で初出場を果たしました。メダルは取れませんでしたが、世界中の人々に大きな感動と希望を与えたと思います。選手団の中の一人、競泳女子二百メートル自由形に出場した十八歳のユスラ・マルディニ選手は、一昨年シリア内戦から逃げるために、ギリシア行きの船に乗りこみました。しかし、その船は沈没してしまい、ユスラ選手は地中海を泳いでギリシアまでたどり着きました。ユスラ選手のように自国に住むことが出来ず、他国に移住して生活せざるを得ない難民がたくさんいるのです。

難民とは、紛争や人種差別、宗教的迫害などによって居住区域を離れた人々のことを指します。彼らは飢餓に苦しみながら国外に脱出し、難民キャンプで暮らしています。

現在、シリア国内でおよそ千二百万人が避難生活を送っています。その中で最も弱い立場に置かれているのは、命の危険や病気、虐待にさらされているシリア国内の子どもたちです。シリアだけでなく、アジアやアフリカでも紛争や迫害によって、多くの人々が避難生活を強いられています。平穏な暮らしをしていた人々がある日突然、その暮らしを失い、難民になってしまうのです。

　私は陸上部に所属しています。難民選手団のことを知って、毎日、安全に練習できているのが、いかに幸せなことなのかがわかりました。戦争のある国では、練習どころか日常生活すら送れない人たちがいるのです。そんな人たちを助けるために、私たちができることは何でしょうか。その一つに募金があります。

佐井寺中学校の生徒会では五円玉キャンペーンを実施しています。五円玉キャンペーンとは、五日、十五日、二十五日と五の付く日に募金を呼びかける活動です。実際に集まる金額は、微々たるものですが、海外の発展途上国にとっては、とても貴重なものです。三年前には佐井寺中学校の募金がシリアに届き、お礼状をいただきました。私たちの活動が世界の人々の役に立っていることがわかり、大きな励みになりました。

募金が集まれば困っている人たちを支援できます。食糧などの配給もされます。「他国のことだから」と自分に関係のないと思うのではなく、支援したいと思う気持ち、そして、それを行動に移していくことが本当に必要とされているのではないでしょうか。

ユスラ選手は、「難民になっても、困難を乗り越え、夢を諦めないでほしい。夢を追い続ければチャンスが舞い込んでくる。自分自身でチャンスを作り出すことも出来る。」と語っています。このように夢を追いかけている子どもたちのために、私は今、自分ができることを精一杯、していきたいと考えています。